



インド

健康な森、健康な人々、気候変動プロジェクト
現地からのお便り（2023年7月～2024年6月）

2024年8月
コンサベーション・インターナショナル

※本プロジェクトは、インドの現地 NGO Applied Environmental Research Foundation (AERF) が実施しています。

保全契約を通じたコミュニティ林の長期的保全

AERF は西ガーツ山脈北部地域の地域住民と保全契約（Conservation Agreement）を結ぶことで、コミュニティ林の長期的な保全に携わってきました。森林は保全するだけでなく、健全性を維持することも重要なため、AERF は劣化した森林の再生も長期的な活動計画に組み込んでいます。

昨年度は、森林火災対策、在来種の植樹、野生生物のための水源地回復を主に行いました。

森林火災対策として、Kalambaste 村のコミュニティ林では、地域住民と協力して 1km の防火帯を設置しました。Kalambaste 村では 5 年前から各所で植林活動が実施されており、この防火帯は植林サイトを森林火災から守るための重要な対策にもなります。また、Katabali 村でも 3 年前から植林を行っており、これまでに植樹した木の種類と本数は以下の表のとおりです。

表 1. 対象地のコミュニティ林で植林した木の種類と数

No.	Scientific Name	Katavali Forest	Kalambaste Forest
1	<i>Pterocarpus marsupium</i>	50	50
2	<i>Pongamia pinnata</i>	100	700
3	<i>Zanthoxylum rhetsa</i>	5	0
4	<i>Terminalia bellirica</i>	0	10
5	<i>Saraca asoca</i>	10	0
6	<i>Artocarpus heterophyllus</i>	10	10
7	<i>Mangifera indica</i>	30	10
8	<i>Sapindus laurifolius</i>	20	100
9	<i>Holoptelea integrifolia</i>	0	10
10	<i>Dalbergia latifolia</i>	20	30
11	<i>Gmelina arborea</i>	50	0
12	<i>Anacardium occidentale</i>	50	100



13	<i>Moringa oleifera</i>	0	0
14	<i>Phyllanthus emblica</i>	50	50
15	<i>Schleichera oleosa</i>	0	50
16	<i>Acacia catechu</i>	0	0
17	<i>Melia dubia</i>	15	25
		410	1145

野生生物のための水源地回復

Khadi Kolvan のコミュニティ林では、コミュニティメンバーによるモニタリングの際に、野生生物が飲むことが出来る水源が 2 つに限られており、しかもそれらの水源はモンスーン後の時期に水が十分蓄えられていないことを発見しました。もしこの 2 つの水源が十分でないと、野生生物は水を求めて人間の居住区に入ってくる恐れがあるため、AERF は地域の人と協力して 2 つの水源の回復に努め、野生生物が安心して水を飲めるようになりました。

2 つの水源地はカメラが設置され、レオパード、ドール、サンバー、ガウル、サル、ジャコウネコ、マングースなどの野生生物がカメラで撮影されました。

保全対象地における生物多様性モニタリング

AERF の調査チームは、保全契約を結んでいる Katavali, Devade, Ambavali, Talawade, Kalambaste, Khadi Kolvan のコミュニティ林において、モンスーン前とモンスーン期の動植物の調査、およびカメラトラップを用いて野生動物の行動の観察を行いました。加えて、コミュニティメンバーによるコミュニティ林のモニタリングも頻繁に行われ、保全林内の違法行為の抑制に貢献しています。

昨年度は、絶滅危惧種のインドサバンナセンザンコウ (Indian Ground Pangolin)、ドール (Asian Wild Dogs)、危急種 (Vulnerable species) のインドヒョウ (Indian leopard)、インドガウル (Indian Gaur) などの姿がコミュニティ林で確認されました。森林保全がこうした貴重な野生生物の保全にも大きな効果を奏している何よりの証拠になると考えています。

「野生生物のための農業 (Farming for wildlife)」プログラム

西ガーツ山脈北部地域では、地域住民の農地と森林が隣接していることが多く、人間と野生生物の対立が生じてきました。特にガウル、サンバーシカ、イノシシ、サル、ムンジャクなど草食動物の地域の田畑への侵入は頻繁に発生しており、森林保全に対する住民のネガティブな感情を引き起こしかねません。



そこで、AERF は Sangameshwar のいくつかの村において、「野生生物のための農業（Farming for wildlife）」プログラムを試験的に導入しました。このプログラムは、コミュニティ林内で放棄された農地を確保し、野生生物のためにコメやミレットを栽培することで、野生生物の地域住民の田畑への侵入を減らすことを目的としています。

地域住民との対話と保全契約の締結

AERF はプロジェクト対象地の住民との対話を継続して実施しており、昨年度は新たに Katavali, Kadi Kolvan, Talwade において計 200 エーカー（約 81ha）のコミュニティ林を保全契約の対象に加えることができました。その結果、これまでのプロジェクトで AERF は 70 を超える村で、計 12,000 エーカー（約 4,856ha）の私有林を保全契約で長期的な保全対象にすることに成功しています。



Kalambaste における植林活動



野生の草食動物のための農業